

CARMATE

No.7397-70784A

リモコンエンジンスターター TE-W1100 取扱説明書

安全にお使いいただくために

付属品の確認

使いかた

設定のしかた

取り付け時の設定

お手入れ

故障かな？と思ったら

もくじ

はじめに	3
注意事項の定義	3
TE-W1100の特長	4
安全にお使いいただくために	5
警告事項	5
注意事項	6
禁止事項	6
参考事項	7
付属品の確認	8
使いかた	11
エンジンをかける	11
エンジンを止める	13
リモコンのボタンをロックする(ボタン操作ロック機能)	14
設定のしかた	15
スターターが自動停止するまでの時間	15
セルモーターの回転時間	18
取り付け時の設定	21
パーキングブレーキ検出の設定	22
P/N検出、フットブレーキ検出の設定	23
IG2制御の設定	27
L端子配線時の設定	27
グロータイムの設定	28
OP端子出力の設定	28

お手入れ	29
リモコンの電池交換	29
故障かな? と思ったら	31
リモコンIDの再登録(混信、妨害電波によって通信が安定しないとき)	31
リモコンを無くしたとき(リモコンIDの登録)	34
エンジンがかからないとき	35
仕様	41

はじめに

このたびは、リモコンエンジンスターターTE-W1100をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

この取扱説明書は、リモコンエンジンスターターTE-W1100(以下本製品という)をご使用頂くためのガイドブックです。

この製品は、一定の安全条件を満たしている場合に、遠隔操作により車のエンジンをスタートさせる装置です。






この製品を正しく安全にご使用頂くために、この取扱説明書をよくお読みになり、内容を理解された上で実際にご使用ください。この取扱説明書はお読みになった後も、車検証入れなどすぐに出せる場所に保管し、ご使用中にわからないことや具合の悪いことがおきたとき、お役立てください。

また、本製品を譲られる場合は、次に使用される方に本書も併せてお渡しください。尚、誤った取り付け、使用による事故、破損などの責任は一切負いかねます。

※本製品使用中に、万一取付車に盗難等の被害が発生しても、当社補償は一切ありません。

注意事項の定義

この取扱説明書の注意事項は、そのレベル、内容ごとにマークを設けています。各々の定義(意味)を十分に理解された上で、お取扱ください。

	危険	重大事故が起こる状況のもの
	警告	人体に対し、危険が生じる恐れのあるもの
	注意	物品を破損、故障させる恐れのあるもの
	禁止	法律に違反する恐れのあるもの
	参考	取り付け、取扱において知っている则有益な情報

TE-W1100の特長

■抜群の操作性

リモコンは1操作を1つのボタンで行なうため、面倒な2度押しなどの必要がありません。さらに、アンテナを伸ばさずに操作OK。ストレスを感じない快適な操作性を実現しました。

■本体一体型アンテナ

TE-W1100は室内アンテナを本体と一体化。車室内はスッキリ、インテリアの雰囲気をこわしません。

■快適な通信性能

先進技術のRSC(Reed Solomon Code)デジタル補正により、通信距離の向上と建物の密集した場所での安定した通信を実現しました。

■誤操作防止機能(14ページ参照)

カバンやポケットの中での思わぬ誤操作を防ぐため、リモコンにボタン操作ロック機能を装備しました。

■自動停止機能(15ページ参照)

本製品によるエンジン始動後、一定時間経過すると自動的にエンジンが停止します。

■リトライ機能

一度の始動動作でエンジンが掛からない場合でも、自動的にセルモーターの回転時間を延長しながら合計3回まで始動を試みますので厳冬期でも安心です(最長セルモーター回転時間=約4.0秒)。

■アイドリング延長機能(11ページ参照)

本製品でのエンジン始動中に再度[START]ボタンを押すことにより、設定した自動停止時間(15ページ参照)までアイドリング時間を延長することができます。

■スリープモード

バッテリーの負担を軽減させるために、14日以上エンジンの始動を行なわなかった場合にエンジンスターターの機能を自動的に停止します。

■スペアリモコン対応<別売>(34ページ参照)

標準装備のリモコンを紛失した場合、別売のスペアリモコンが使用可能です。

■純正イモビライザー装着車対応

純正イモビライザー装着車でもエンジンスターターがお使いいただけるよう、別売のアダプターを用意しました。
※車種により適合の可・不可があります。詳しくは店頭の手帳別ハーネス適合表をご覧ください。

■電波法適合品

本製品の特定小電力無線は日本国内の電波法に適合していますので安心してお使い頂くことができます。

■車検対応品

本製品は車検対応品です。

■寒冷地推奨品

本体は-20℃でも動作可能なため、厳冬期でも安定した動作を実現します。

■安心の日本製で、信頼の3年保証

TE-W1100は日本製。徹底した品質管理により、信頼の3年保証(リモコンは1年)を実現しました。

安全に全ith使いたため

付属品の確認

使いた

設定のしかた

取り付け時の設定

お手入れ

故障かな?と思ったら

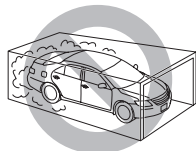
安全にお使いいただくために

本製品を安全にお使いいただき、お客様や周りの方、物への被害を防ぐため、必ずお読みください。

警告事項

⚠警告

換気の良くない場所（ガレージ・立体駐車場・地下駐車場）で使用しないでください。排気ガスが充満して大変危険です。



⚠警告

車にボディカバーを掛けたままで使用しないでください。火災の恐れがあります。



⚠警告

マフラーが雪で埋もれた状態で使用しないでください。排気ガスが車内に充満する恐れがあります。また配線の損傷による車両火災の原因にもなりますので大変危険です。



⚠警告

車の近くに燃えやすいものがないことを確認してから、ご使用ください。火災の恐れがあります。



⚠警告

リモコンは、お子様の手が届かない場所に保管してください。誤操作による事故の恐れがあります。



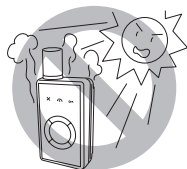
⚠警告

お子様やペットなどを車内に残したままで、使用しないでください。事故の恐れがあります。



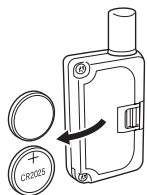
⚠警告

リモコンは、直射日光の当たる場所・車内・暖房器具の近く等、高温になる場所で、保管または使用しないでください。リモコンが高温になり、やけどや故障の原因となります。特に、車のダッシュボード上は非常に高温となりますので、絶対に放置しないでください。



⚠警告

車を他人に預ける時（整備に出す等）は、リモコンの電池を抜いておいてください。誤操作による事故の恐れがあります。



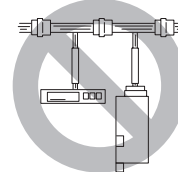
⚠警告

運転中に本製品の操作をしないでください。事故の原因になります。

注意事項

⚠注意

ターボタイマー（スターター）や盗難警報機類との併用取り付けはしないでください。誤作動の原因となります。



⚠注意

リモコンを床に落としたり硬いものにぶつけたりしないでください。故障の原因となり、リモコンでの操作ができなくなる場合があります。



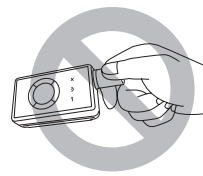
⚠注意

リモコンは直接水のかかる場所や湿気の多い場所で、保管または使用しないでください。故障の原因となり、リモコンでの操作ができなくなる場合があります。



⚠注意

リモコンのアンテナに強い力がかかるような持ち方をしないでください。破損の原因となります。



⚠注意

長時間使用しないときは、リモコンの電池を抜いておいてください。故障の原因となります。



⚠注意

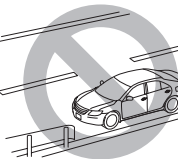
製品が汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよく絞ってから拭き、乾いた布でもう一度拭いてください。ベンジン、シンナー等の化学薬品は、絶対に使用しないでください。変形・変色や故障の原因となります。



禁止事項

⚠禁止

エンジンスターター機能は安全な場所でご使用ください。道路で使用すると違法となりますので、絶対に使用しないでください。



⚠禁止

この製品は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解したり、改造することは、法律で禁じられておりますので、絶対にしないでください。



⚠禁止

製品に貼付の技術適合証明ラベルをはがしたり、ラベルのないものを使用することは、法律で禁じられておりますので、絶対にしないでください。

⚠禁止

この製品は、日本国内の電波法に適合しています。国外での使用は、違法となる場合がありますので、おやめください。

⚠禁止

一部地域では、暖機運転以外の目的で使用すると条例違反となります。

⚠CAUTION

This Product is for use only in Japan.

安全にお使いいただくために
付属品の確認
使用した
設定のしかた
取り付け時の設定
お手入れ
故障かな？と思ったら

⚠危険

マニュアル車へ取り付けることは、絶対にしないでください。マニュアル車は、冬季にパーキングブレーキの凍結を防ぐため、パーキングブレーキを掛けずにギアを「ロー」もしくは「バック」に入れ駐車する場合があります。また、坂道などに駐車する際にもギアを「ロー」もしくは「バック」に入れます。その状態でエンジンスターターを使用すると、無人走行の原因となり、思わぬ重大事故につながります。



●マニュアル車には、取り付けできません。

24V

●12V車専用です。トラックなどの24V車には、お取り付けできません。

外車 特種用途自動車

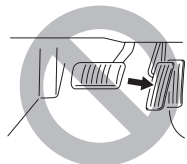
●外車・特種用途自動車には、取り付けできません。

キーフリー スマートキー セキュリティ

●キーフリーシステム・スマートキーシステム・純正セキュリティアラーム装着車には、取り付けできません(適合車種除く)。

●平成元年以前の車でシフトロックが装着されていない車(フットブレーキを踏まずにセレクトレバーが「P」から移動できる車)には、取り付けできません。

●エンジン始動時に下記のような場合には、お取り付けできません。



アクセル操作が必要な車



チョークレバーを引く車



年間通じて、キーを回して2秒程度でエンジンのかからない車

●雨滴感応ワイパー装備車には、お取り付けできません。取り付けすると車両故障の原因となります。

参考事項

📖 参考

電波到達距離は、周囲の環境や使用状況により異なります。車と送信場所との間に建造物等がある場合には、電波到達距離が短くなります。

📖 参考

まれに、本製品と純正のキーレスエントリーの電波が干渉し、キーレスエントリーの作動距離が極端に短くなる場合があります。その場合は、本体の取付位置を変更することで改善することがあります。

📖 参考

リモコンをTV、パソコンなどの近くで使用するとノイズの影響により通信距離が短くなる場合があります。その場合はノイズ発生源から離してお使いください。

📖 参考

オートチルトおよびマイコンプリセットステアリング装着車は、本製品でエンジン始動した状態でイグニッションキーを差込んでもオートチルトおよびマイコンプリセットが作動しなくなりますので、キーでエンジンを再始動してください。

📖 参考

ほとんどの純正キーレスエントリー装着車は、車両の仕様上、エンジン始動中に純正キーレスエントリーが作動しないようになっています。このような車両の場合、エンジンスターター機能でのエンジン始動中はキーでドアを開ける必要がありますのでご了承ください。

📖 参考

本製品のそばで大出力の無線機等を使用すると、無線機の発する電磁波により、誤作動や未作動の原因となる場合があります。

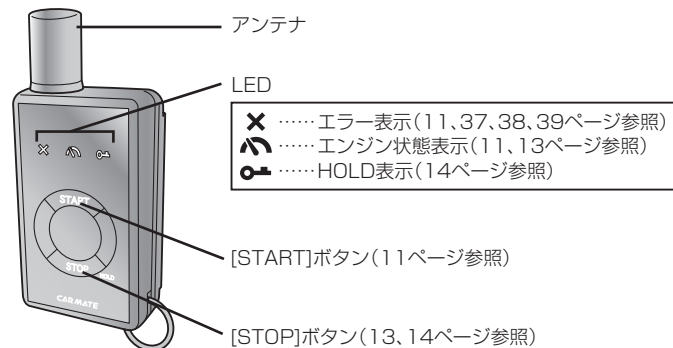
📖 参考

オートライトコントロール装着車は、ライトスイッチがAUTOの位置で本製品を作動させると、オートライト機能が正常に作動しない場合があります。ライトスイッチは必ずOFFの位置にしてご使用ください。

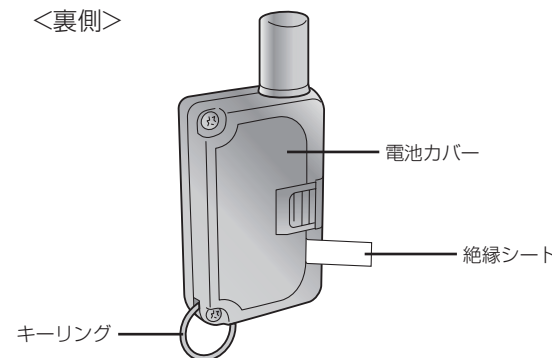
付属品の確認

●リモコン 1個

<表側>



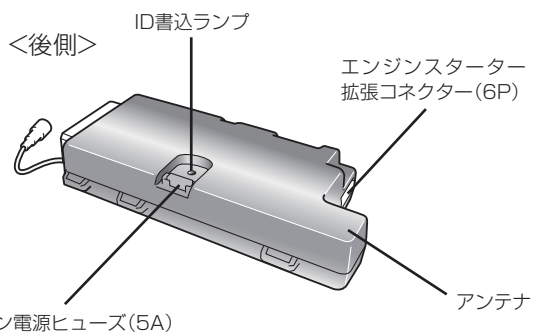
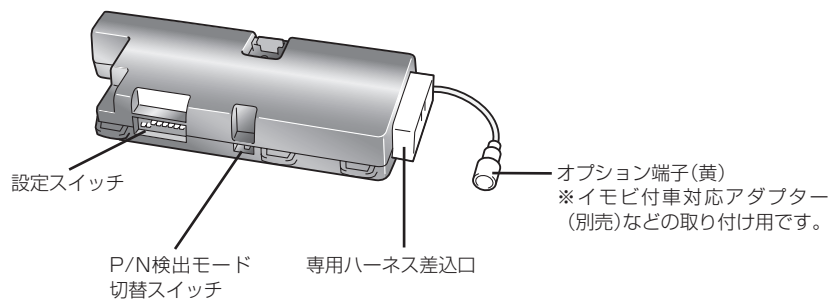
<裏側>



📖参考 絶縁シートは、使用前に抜いてください。

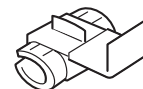
●本体(メインユニット) 1個

<前側>



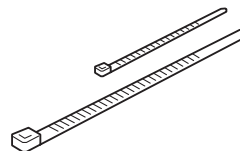
●その他の付属品

・ワンタッチコネクター 1個



フットブレーキの配線に使用します。

・結束バンド(小) 2本
・結束バンド(大) 1本



コードを束ねたり、本体の固定に使用します。

・危険シール 1枚



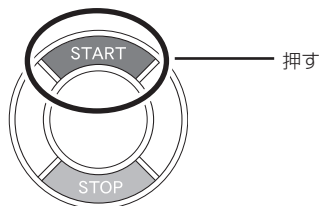
エンジンルーム内の目立つ場所に貼ります。

使いかた

エンジンをかける

- メモ すでにリモコンを使ってエンジンがかかっているときにこの操作をすると、アイドルリングの残り時間が最初の時間に戻ります。(アイドルリング延長機能)
環境に配慮し、不必要なアイドルリングの延長はおやめください。

1 リモコンの[START]ボタンを押します。



<リモコン操作が受け付けられると…>

「ピッ」とリモコンから音が鳴ります。
ハが緑色で、「パッパッパッ」という3回の点滅を繰り返します。

参考 誤操作防止のため、ボタンを押している時間が短かすぎると操作が受け付けられません。

2 リモコンの状態を確認します。

<通信が成立すると…>

「ピピッ」とリモコンから音が鳴ります。
ハが緑色で、「パッパッパッ…」と点滅を繰り返します。

<エンジンが掛かると…>

「ピッ」とリモコンから音が鳴ります。
ハが緑色で数秒間点灯し、消えます。

メモ Xが点灯したときは、リモコンと本体との通信が成立しなかったため、エンジンがかかっていません。12ページを参照して対処してください。

メモ Xとハが点灯したときは、通信は成立しましたが何らかの理由でエンジンがかかっていません。37ページ「エラー表示一覧」を参照して対処してください。

3 車に乗り込み、車のイグニッションをONにします。

これで走行できるようになりました。

参考 一部の車種では、いったんエンジンを切ってからキーでエンジンをかけ直す必要があります。

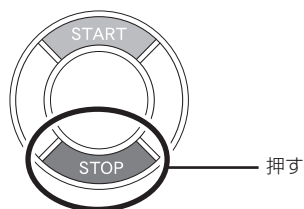
次のような場合に、正常に通信できないことがあります。

- ・リモコンからの送信時に、周囲で同じ周波数帯の電波が飛んでいる → 時間をおいてもう一度操作してください。
- ・リモコンからの送信時に、アンテナユニットも送信している → 時間をおいてもう一度操作してください。
- ・車から離れていて電波が届かない → 車に近付いてもう一度操作してください。

エンジンを止める

- 参考 この操作では、本製品でエンジンをかけた場合にだけエンジンを止められます。
- 参考 キースイッチにキーが差し込まれていてイグニッションがONになっているときは、この操作ではエンジンを止められません。

1 リモコンの[STOP]ボタンを押します。



<リモコン操作が受け付けられると…>
「ピッ」とリモコンから音が鳴ります。
ハが赤色で、「パッパッ」という点滅を繰り返します。

- 参考 誤操作防止のため、ボタンを押している時間が短かすぎると操作が受け付けられません。

2 リモコンの状態を確認します。

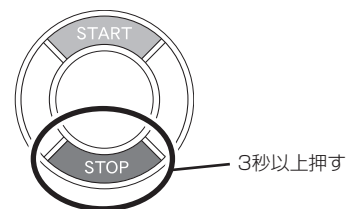
<エンジンが止まると…>
「ピピッ」とリモコンから音が鳴ります。
ハが赤色で1回点灯し、消えます。

- メモ Xが点灯したときは、リモコンと本体との通信が成立しなかったため、エンジンがかかっていません。12ページを参照して対処してください。

リモコンのボタンをロックする(ボタン操作ロック機能)

ポケットにリモコンを入れているときなどに、誤ってボタンが押されて本製品が動作してしまうことを防ぐため、リモコンのボタン操作を無効にできます。

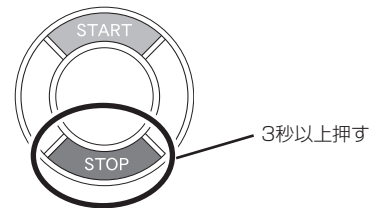
1 [STOP]ボタンを3秒以上押し続けます。



キーがオレンジ色に光ります。

これでリモコンのボタン操作が無効になりました。

2 ボタン操作を可能にするときは、もう一度[STOP]ボタンを3秒以上押し続けます。



キーが短く3回光ったあと、ハが緑色に光ります。

これでリモコンのボタン操作が有効になりました。

設定のしかた

スターターが自動停止するまでの時間

本製品でエンジンをかけてそのまま放置していると、一定時間経過後に自動的にエンジンが停止します。そのエンジン停止までの時間を設定できます。

- メモ 環境に配慮し、不必要なアイドリングはおやめください。
- メモ この操作は本製品を取り付けた車の中で行います。設定内容に応じて本体から音が出ますので、音を聞き逃さないために、作業前にエアコンやオーディオなどの電装品の電源を切っておいてください。
- メモ リモコンの操作音と本体の音を聞き間違えないように注意してください。

1 イグニッションキーをキースイッチに差し込んで、ONの位置まで回します。

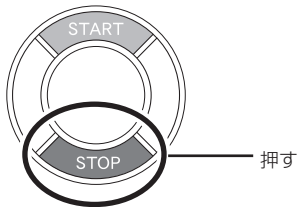
参考 エンジンがかけないでください。

注意 2~手順4までの操作は1分以内に行ってください。

メモ 操作中にリモコンのXが点灯したり、リモコンから「ピピピピ」というような音が出ますが、エラーの発生を知らせるものではありません。そのまま作業を続けてください。

2 リモコンの[STOP]ボタンを押します。

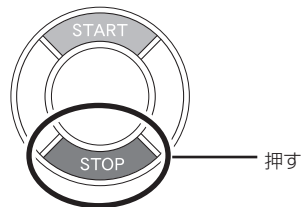
本体から「ピッ」と音が鳴ります。



メモ 音が鳴るまで5秒程度かかることがあります。

3 リモコンの[STOP]ボタンを押します。

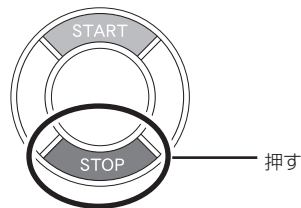
本体から「ピッ」と音が鳴ります。



メモ 音が鳴るまで5秒程度かかることがあります。

4 リモコンの[STOP]ボタンを押します。

本体から「ピロー」と音が鳴ります。



メモ 音が鳴るまで5秒程度かかることがあります。

次のページへ

5 リモコンの[START]ボタンまたは[STOP]ボタンを押して設定を変更します。

本体の音を聞いて、設定値を把握してください。

設定値(自動停止までの時間)	本体の音
30分	「ピー」×6回
25分	「ピー」×5回
20分	「ピー」×4回
15分(標準設定)	「ピー」×3回
10分	「ピー」×2回
5分	「ピー」×1回

[START]ボタンを押すと、1つ上の設定値に切り替わります。

[STOP]ボタンを押すと、1つ下の設定値に切り替わります。

△注意 ボタン操作は1分以内に行ってください。ボタン操作をしてから1分間なにも操作しないと、最後に設定した値が本体に登録されます。

メモ [START]ボタンや[STOP]ボタンは、本体の音を確認しながら1回ずつ押してください。

メモ 30分に設定していて [START] ボタンを押した場合や、5分に設定していて [STOP] ボタンを押した場合は、設定値は変更できません。このとき、本体からは「ブブブ」と音が鳴ります。

6 設定が完了したら、キースイッチをOFFにします。

セルモーターの回転時間

スターターでエンジンをかけるときの、セルモーターの回転時間を設定できます。

参考 エンジンが掛かるまでの時間よりも回転時間を長く設定すると、エンジンが掛かった後もセルモーターが回ってしまい、「カリカリ…」と異音が発生することがあります。

メモ スターターからの信号でエンジンがかからなかった場合、最初の始動と合わせて最大3回、自動でエンジンをかけ直します。そのとき、セルモーターの回転時間は0.5秒ずつ長くなります。

メモ この操作は本製品を取り付けた車の中で行います。設定内容に応じて本体から音が出ますので、音を聞き逃さないために、作業前にエアコンやオーディオなどの電装品の電源を切っておいてください。

メモ リモコンの操作音と本体の音とを間違えないように注意してください。

1 イグニッションキーをキースイッチに差し込んで、ONの位置まで回します。

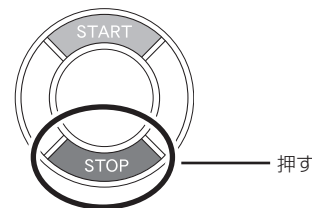
参考 エンジンはかけないでください。

△注意 ②～手順④までの操作は1分以内に行ってください。

メモ 操作中にリモコンの×が点灯したり、リモコンから「ピピピピ」というような音が出ますが、エラーの発生を知らせるものではありません。そのまま作業を続けてください。

2 リモコンの[STOP]ボタンを押します。

本体から「ピッ」と音が鳴ります。

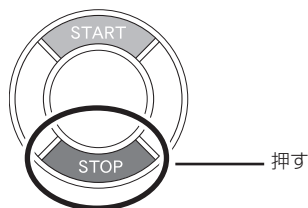


メモ 音が鳴るまで5秒程度かかることがあります。

次のページへ

3 リモコンの[STOP]ボタンを押します。

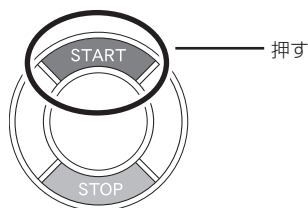
本体から「ピッ」と音が鳴ります。



メモ 音が鳴るまで5秒程度かかることがあります。

4 リモコンの[START]ボタンを押します。

本体から「ピロ〜ピロ〜」と音が鳴ります。



メモ 音が鳴るまで5秒程度かかることがあります。

5 リモコンの[START]ボタンまたは[STOP]ボタンを押して設定を変更します。

本体の音を聞いて、設定値を把握してください。

設定値(セル回転時間)	本体の音
3.0秒	「ピー」×5回
2.0秒	「ピー」×4回
1.5秒	「ピー」×3回
1.0秒(標準設定)	「ピー」×2回
0.5秒	「ピー」×1回

[START]ボタンを押すと、1つ上の設定値に切り替わります。
[STOP]ボタンを押すと、1つ下の設定値に切り替わります。

注意 ボタン操作は1分以内に行ってください。ボタン操作をしてから1分間なにも操作しないと、最後に設定した値が本体に登録されます。

メモ [START]ボタンや[STOP]ボタンは、本体の音を確認しながら1回ずつ押してください。

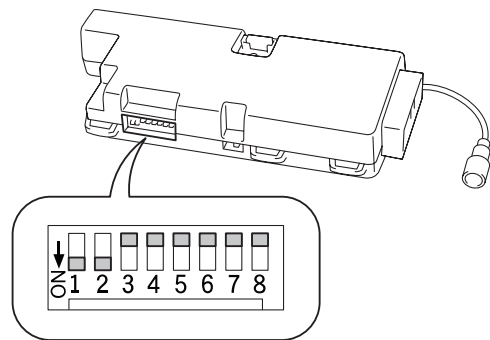
メモ 3.0秒に設定していて [START] ボタンを押した場合や、0.5秒に設定していて [STOP] ボタンを押した場合は、設定値は変更できません。このとき、本体から「ブブブ」と音が鳴ります。

6 設定が完了したら、キースイッチをOFFにします。

取り付け時の設定

本体の設定スイッチを切り替えて、本製品の機能や動作条件などを設定します。

参考 この設定は取り付け時にだけ行ってください。不用意に設定を変更すると、本製品が正常に動作しなくなることがあります。



設定スイッチ(標準設定)

スイッチ番号	設定項目	参照ページ
1	パーキングブレーキ検出の設定	22
2	P/N検出、フットブレーキ検出の設定	23
3	IG2制御の設定	27
4	L端子配線時の設定	27
5	(使用しません)	—
6	グロータイムの設定	28
7	OP端子出力の設定	28
8	ID書込	31

パーキングブレーキ検出の設定

パーキングブレーキ(サイドブレーキ)がかかっていないときに、本製品でエンジンが始動できないように設定できます。

- メモ** 寒冷地などでパーキングブレーキ(サイドブレーキ)をかけずに駐車する場合は、この機能は使用しないでください。「検出しない」に設定してください。
- メモ** パーキングブレーキ検出機能を使用するときは、あらかじめサイドブレーキ検出コードを接続してください。(別紙「取付マニュアル」参照)

●設定内容

スイッチ1の設定	パーキングブレーキ検出
上(OFF)	検出する
下(ON)	検出しない(標準設定)

安全に
使いた
たため
に
付属品
の確認
使いた
た
設定の
しかた
取り付
け時の
設定
お手入
れ
故障か
な?と
思っ
たら

P/N検出、フットブレーキ検出の設定

安全機能として、ギアがパーキングまたはニュートラルに入っているかを検出する「P/N検出」と、フットブレーキが踏まれていないかを検出する「フットブレーキ検出」のいずれかを選択する必要があります。

メモ フットブレーキ検出機能を使用するときは、あらかじめフットブレーキ検出コードを配線してください。(別紙「取付マニュアル」参照)

メモ 車種によってはP/N検出機能が使用できない場合があります。その場合は、フットブレーキ検出機能を使用してください。

参考 本製品を他の車に取り付け直すときは、P/N検出データを消去する必要があります。その場合は、設定スイッチ2を一旦「フットブレーキ検出」にしてP/N検出データを消去してから、設定し直してください。

●設定内容

スイッチ2の設定	フットブレーキ検出・P/N検出
上(OFF)	フットブレーキ検出(*1)
下(ON)	P/N検出(標準設定)(*2)

*1 P/N検出データが消去されます。

*2 P/N検出機能を使用するときは、「P/N検出データの設定」(24ページ)と「P/N検出時のST1/ST2切り替え」(26ページ)の設定も行ってください。

P/N検出データの設定

初めて本製品を取り付けたときや、他の車に取り付け直したときは、P/N検出データ(*)を本体に登録する必要があります。

*P/N検出とは、「ギアがパーキングもしくはニュートラルに入っている」か、「ギアが他のポジションに入っている」かを検出する機能です。

1 車に乗ります。

2 セレクトレバーを「P」にしてキーを抜きます。

3 本製品のリモコンでエンジンをかけます。

エンジンが掛かる場合

P/N検出データが設定済みか、フットブレーキ検出に設定済みです。このまま使用してください。

本体から音が出る場合

「ピー・ピー・ピー・ピー、ピー・ピー・ピー・ピー」と鳴ったときは、次ページの手順**4**に進んでください。
他の音が鳴ったときは、「エラー表示一覧」(37ページ)を参照して対処してください。

次のページへ

4 20秒以内にイグニッションキーを「ON」（メーターパネルが点灯する位置）にします。

20秒以内に操作できなかったときは、前ページの手順2からやり直してください。

操作後、しばらくしてから本体が「ピ・ピ・ピ・ピー、ピ・ピ・ピ・ピー」と鳴ったとき車種別専用ハーネスの品番と、車種別専用ハーネスの取り付け状態を確認してください。

操作してすぐに本体が「ピー」と鳴ったとき手順5へ進んでください。

5 20秒以内にブレーキを踏みながらセレクトレバーを「R」または「D」にします。

20秒以内に操作できなかったときは、手順2からやり直してください。

本体が「ピ・ピ・ピ・ピー、ピ・ピ・ピ・ピー」と鳴ったとき「P/N検出時のST1/ST2切り替え」（26ページ）を参照して、ST1とST2を切り替えてください。その後、もう一度手順2からやり直してください。ST1とST2のどちらでも設定できない場合は、P/N検出に対応できない車両です。フットブレーキ検出コードを配線して、本体の設定スイッチ2をOFF（上側）に切り替えてください。

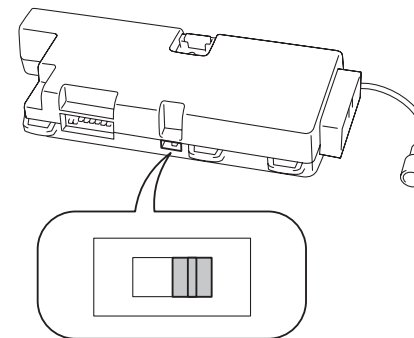
本体が「ピー」と鳴ったとき手順6へ進んでください。

6 セレクトレバーを「P」に戻してキーを抜きます。

これでP/N検出データの設定は完了です。

P/N検出時のST1/ST2切り替え

P/N（パーキング/ニュートラル）検出機能を使用する場合に、正しく検出できるように本体の「P/N検出モード切替スイッチ」を設定します。



P/N検出モード切替スイッチ

●設定内容

スイッチの位置	P/N検出モード
右側	ST1（標準設定）
左側	ST2

IG2制御の設定

次の条件を満たすホンダ車で本製品を使用する場合は、この設定を必ずON(下側)にしてください。

- ・純正のABS(アンチロック・ブレーキ・システム)を装着している
- ・本製品でエンジンをかけたときに、メーターパネルのABS警告灯が点灯したままになる

また、ニッサン車で、店頭の「車種別ハーネス適合表」に「IG2制御をONにする必要があります。」と記載されている車種の場合も、この設定を必ずON(下側)にしてください。

参考 正しく設定しないと、ABS警告灯が点灯したままになったり、リモコン操作で正常にエンジンがかからない場合があります。

●設定内容

スイッチ3の設定	IG2制御
上(OFF)	通常(標準設定)
下(ON)	特殊

L端子配線時の設定

車両特性によって本製品がエンジンの始動を判断できない場合は、L端子検出コードを車両のL端子に配線してこの設定をON(下側)にすることで、正常にエンジン始動判断ができるようになります。

- メモ** 通常は標準設定(L端子配線しない)のまま使用してください。
- メモ** この設定は、L端子への配線を行った場合にだけ有効になります。

●設定内容

スイッチ4の設定	L端子配線
上(OFF)	なし(標準設定)
下(ON)	あり

- メモ** L端子は、エンジンルームのオルタネーターから出ている、次の条件をすべて満たすコードです。
 - ・バッテリーにつながっている太いコード以外
 - ・イグニッションがOFFのときの電圧が0V
 - ・イグニッションをONにしたときの電圧が約+2V以下
 - ・エンジン始動後の電圧が約+12V

グロータイムの設定

リモコンからのスタート信号を受信してからセルが回るまでの時間を設定できます。

- メモ** 通常は標準設定(8秒)のまま使用してください。

参考 時間を短くすると、特にディーゼル車の場合、寒冷時にエンジンがかからなくなる恐れがあります。

●設定内容

スイッチ6の設定	グロータイム
上(OFF)	8秒(標準設定)
下(ON)	5秒

OP端子出力の設定

本製品に次のアダプターを接続する場合は、この設定をON(下側)にしてください。

- ・TE413(イモビ付車対応アダプター-2)
- ・TE417(純正セキュリティ対応アダプター-1)
- ・TE420(キー検出制御アダプター)
- ・TE422(イモビ付車対応アダプター-5) (2007年7月現在)

●設定内容

スイッチ7の設定	OP端子出力
上(OFF)	A(標準設定)
下(ON)	B

お手入れ

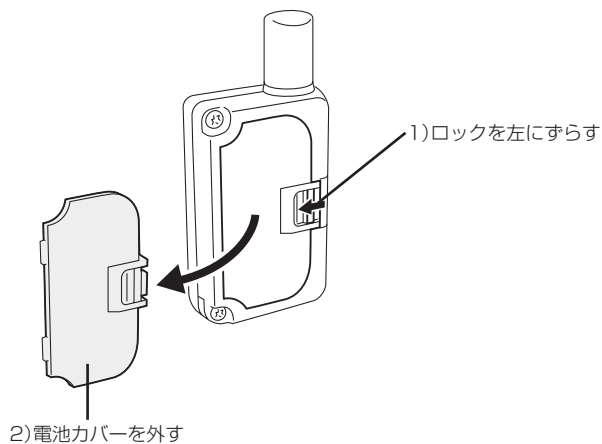
リモコンの電池交換

リモコンの送信距離が短くなったり操作できなくなったとき、表示が暗くなってきたときは、リモコンの電池が消耗しています。新しい電池（CR2025×2個）に交換してください。

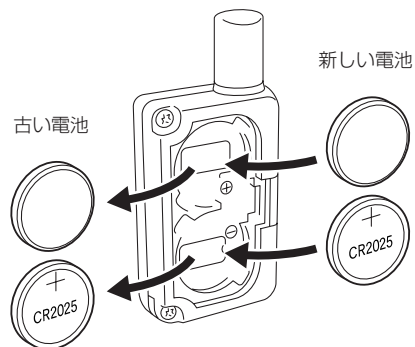
メモ 電池の寿命は、1日10回、常温での使用で約1年です。

注意 必ず新しい電池2個と交換してください。新しい電池と古い電池を同時に使用すると、液漏れなどの原因になります。

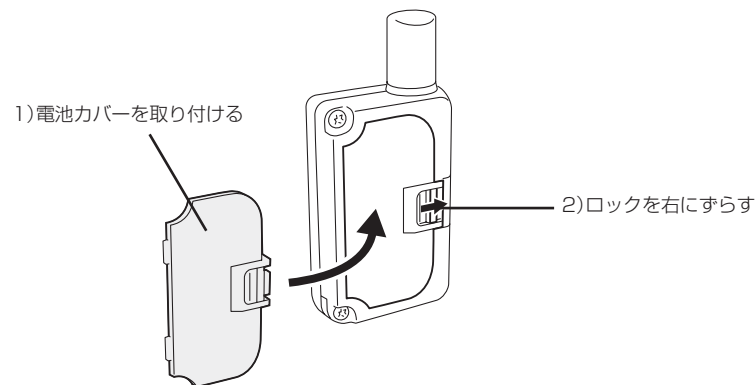
1 リモコン裏面のロックを左にずらして電池カバーを外します。



2 電池を交換します。



3 元通り電池カバーを取り付けて、ロックを右にずらします。



参考 使い終わった電池は、各自治体が定める方法で処理してください。

故障かな?と思ったら

リモコンIDの再登録(混信、妨害電波によって通信が安定しないとき)

スペアリモコンの購入時などは、次の手順でリモコンのIDを本体に登録する必要があります。

また、このID登録手順を行うことにより、通信周波数が自動的に変化するため、通信が安定する場合があります。

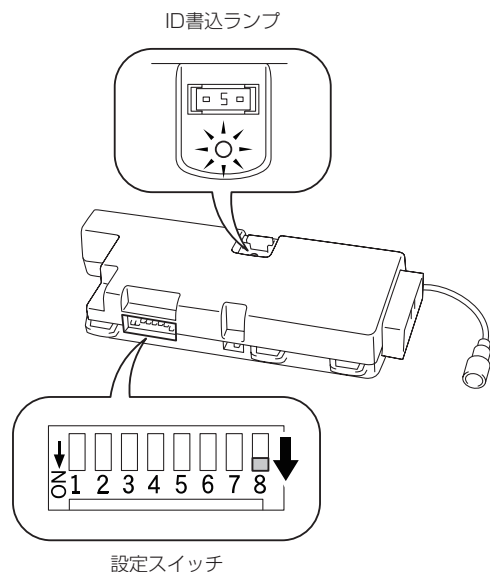
登録方法は、「A:本製品の本体の設定スイッチを使う方法」と、「B:車のイグニッションキーを使う方法」の2通りあります。いずれかの方法で作業してください。

- メモ 作業前に必ずエンジンを止めてください。また、本体の発する音を聞き逃さないため、オーディオ、エアコンなど音の出る装置を止めることをおすすめします。
- メモ 作業は2分以内に完了してください。

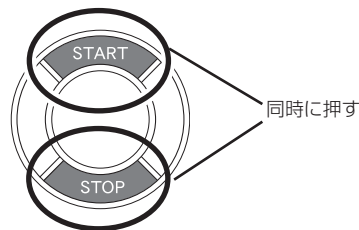
A:本体の設定スイッチを使う方法

1 本体の設定スイッチ8を下側にします。

本体のID書込ランプが点灯します。



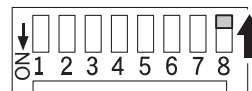
2 リモコンの[START] ボタンと[STOP] ボタンを同時に3秒以上長押しします。



3 リモコンの状態と本体の状態を確認します。

- ×、、 が同時に光り、リモコンから「ピー」と音が鳴ります。
- ↓
- 本体から「ピー」と音が鳴ります。
- ↓
- 約5秒後、本体から「ピピピ」と音が鳴ります。
- ↓
- ×、、 が同時に点滅し、リモコンから「ピピ」と音が鳴ります。

4 本体の設定スイッチ8をOFF(上側)にします。



これで設定は完了です。

B:車のイグニッションキーを使う方法

- 1 イグニッションキーをキースイッチに差し込んで、ONの位置まで回します。

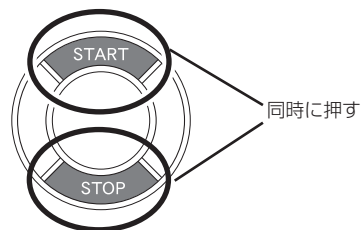
☎参考 エンジンはかけないでください。

- 2 OFFの位置に戻します。

- 3 手順1、2をさらに4回繰り返します。

イグニッションキーをONにするたびに、本体から「ピー」と音がすることを確認してください。キーを動かすのが早すぎると音が鳴りませんので、5秒程度、時間を空けてください。

- 4 本体から「ピー——」と長い音がしたら、リモコンの [START] ボタンと [STOP] ボタンを同時に3秒以上長押しします。



- 5 リモコンの状態と本体の状態を確認します。

✕、🔑、🔑 が同時に光り、リモコンから「ピー」と音が鳴ります。



本体から「ピー」と音が鳴ります。



約5秒後、本体から「ピピピ」と音が鳴ります。



✕、🔑、🔑 が同時に点滅し、リモコンから「ピピ」と音が鳴ります。

これで設定は完了です。

リモコンを無くしたとき(リモコンIDの登録)

リモコンを紛失したときは、別売の補修用スペアリモコン(品番:TER-W1100(カラー:グロスブラック))をお買い求めください。

また「リモコンIDの再登録(混信、妨害電波によって通信が安定しないとき)」(31ページ)を参照して、本体にリモコンIDを登録してください。

メモ 登録できるリモコンは1台だけです。

エンジンがかからないとき

必ず下記の手順に従って確認作業を行なってください。

1 リモコン電池の状態を確認します。(29ページ参照)

- ・リモコンの電池は正しく入っていますか?
- ・リモコンの電池が消耗していませんか?

2 取付車種および取付ハーネス品番などを確認します。

- ・取付車種が本製品の取付不可車種になっていませんか?(店頭または当社ホームページの車種別ハーネス適合表等で確認してください。)
- ・ハーネスの品番は合っていますか?(店頭または当社ホームページの車種別ハーネス適合表等で確認してください。)
- ・車種別専用ハーネスのアースコード(黒)の接続は正常ですか?ゆるみ等はありませんか?

3 キーでエンジンがかかるかどうか確認します。

キーでもエンジンがかからない場合

車種別専用ハーネスが正しく接続されているかどうか確認してください。
(イモビライザー装着車の場合はイモビ付車対応アダプターの接続も確認してください。)

キーでならエンジンがかかる場合

- ・純正イモビライザー装着車の場合は、イモビ付車対応アダプターの配線、ループアンテナの取り付け位置、ケース内のキーの固定位置などを調整してください。
- ・本体のヒューズが切れていないかどうか確認してください。
- ・本体の設定スイッチNo.3「IG2制御」の設定を確認してください。

4 通常待機時の本体のID書込ランプの発光状態を確認します。

本体表側のID書込ランプの発光状態を確認します。

ランプの状態	原因・対処方法
ランプが消えたままになっている	通常の受信待機中です。 手順5に進んでください
ずっと点灯し続ける	ID書き込みモードになっています。 本体の設定スイッチNo.8がONになっている場合はOFFに切替えてください。 本体の設定スイッチNo.8がOFFになっている場合は車種別専用ハーネスを本体から一旦抜いて再び差し込んでください。

5 リモコンでエンジンスタートの操作を行い、本体のブザー音を確認する

本製品にはエンジンの始動ができない原因を自己診断して、本体のブザー音によって知らせる機能があります。

操作方法

リモコンの[START]ボタンを押し、エンジンスタートの操作をしてください。(11ページ参照)

その時、本体から鳴るブザーの状態を確認してください。


エラー表示一覧は、次ページを参照してください。


参考 車両のすぐ近くで操作しても、通信ができない(操作後10秒程度でリモコンの×マークが点灯し、「ブブブ」と音がする)場合は、31ページ「リモコンIDの再登録」の操作を行ってください。それでも改善しないときは、本体から車種別専用ハーネスを外して15秒程度待ってからもう一度接続し、再度31ページ「リモコンIDの再登録」の操作を行ってください。

安全に正しくお使いください
付属品の確認
使いかた
設定のしかた
取り付け時の設定
お手入れ
故障かな?と思ったら

エラー表示一覧

● =短いブザー音 ■ =長いブザー音

リモコンの表示	本体のブザー音	原因・対処方法
✕と  が点灯	●●●● ●●●●	<p>●P/N検出エラー1 シフトポジションが「P」または「N」以外の位置になっている可能性があります。エンジンを掛けることができる位置にシフトポジションを切替えてください。 シフトポジションが「P」または「N」の位置であるにも関わらずこのエラーが出る場合は、本体の設定スイッチNo.2(フット/PN切替)をOFFにし、5秒程度待ってから再びONに切り替え、23ページを参考の上、再びP/N検出データの設定を行なってください。</p>
	●●●● ●●●●	<p>●フットブレーキ検出エラー フットブレーキ検出コード(車種別専用ハーネスの細い紫コード)の配線が誤っている可能性があります。(フットブレーキを踏んだ際、本体のID書込ランプが点灯するかどうか確認してください。) フットブレーキ検出を使用せずにP/N検出を使用する場合は、必ず本体の設定スイッチNo.2(フット/PN切替)を「P/N」(ON側)に切り替えてください。</p>
	●●●● ●●●●	<p>●パーキングブレーキ検出エラー パーキングブレーキ検出を使用しない場合は、本体の設定スイッチNo.1(パーキングブレーキ検出)が「検出しない」(ON側)になっているかどうか確認してください。 パーキングブレーキ検出を使用する場合は、サイドブレーキ検出コード(車種別専用ハーネス付属の細い橙コード)の配線が誤っている可能性があります。サイドブレーキ検出コードの配線を確認してください。</p>
	●●●● ●●●●	<p>●L端子エラー L端子検出コードの配線が誤っている可能性があります。配線を確認してください。(L端子配線については27ページ参照)</p>
	●●●● ●●●●	<p>●バッテリー容量エラー 車両バッテリーの電圧が低く、セルモーターを回せません。車両のバッテリーを充電してください。(バッテリー上がり未だに防ぐための機能です)</p>

✕と  が点灯	●●●● ●●●●	<p>●始動判断エラー1(始動判断できない) セルは回るが、エンジンがスタートしない場合セルモーターの作動時間が短いことが考えられます。18ページを参照の上、セル回転時間を長めに切り替えてください。また、イモビ付車対応アダプターを使用している場合は、アダプターが正常に取り付けられているか確認してください。 エンジン始動後すぐに止まってしまう場合 車両特性によりエンジンの始動判断が行なえません。始動判断が正常に行われない場合は、車両オルタネータのL端子コードに専用ハーネス付属のL端子検出コード(茶色の細い線)を接続した上で、L端子配線の設定(27ページ参照)を行なってください。</p>
	なし	<p>●イグニッションエラー 車両のイグニッションがキーによってONになっていません。イグニッションキーを抜いてください。</p>
	●●●● ●●●●	<p>●スリープモード 14日以上エンジンをスタートさせていない場合は、スリープモードに入るためエンジンスタートができません。キーで一度エンジンを掛けてスリープモードを解除してください。</p>
	●●●● ●●●●	<p>●P/N検出エラー2 P/N検出が設定されていません。23ページを参照の上、P/N検出の設定を行なってください。 P/N検出が正常に行なえない車両の場合は、本体の設定スイッチNo.2(フット/PN切替)を「フット」(OFF側)に切り替えて、フットブレーキコード(車種別専用ハーネスの細い紫コード)を配線してください。(→別紙取付マニュアル参照)</p>
✕のみが点灯		<p>●通信エラー リモコンと本体間の通信が成立しませんでした。(12ページ参照)</p>
	エンジンが始動しないのに本体から「ピッ、ピッ、ピッ……」という音が続く場合	<p>●始動判断エラー2(誤った始動判断を行なう) 車両特性により、誤った始動判断を行なっています。本体の設定スイッチNo.3(IG2制御)の設定を確認してください。それでも始動判断が正常に行なわれない場合は、車両オルタネータのL端子コードに専用ハーネス付属のL端子検出コード(茶色の細い線)を接続した上で、L端子配線の設定(27ページ参照)を行なってください。</p>

その他のトラブル

	症状	解説	参照ページ
リモコンについて	リモコンが操作できない	リモコンの電池が消耗していませんか?新しい電池に交換してから操作してください。	29
		リモコン裏面の絶縁シートが付いたままの場合、外してからご使用ください。	—
	リモコンでエンジンを止めることができない	キーでエンジンを掛けている時は、リモコンでのエンジン停止は行なえません。	—
	エンジンスターターの操作時、車両側はエンジンが掛かるにも関わらず、リモコンへのアンサーバックが行なわれない。	本製品のリモコンは、エンジンスターターの操作から約30秒間のみ車両からのアンサーバック信号を待ち受けています。この間に何らかの原因によりアンサーバック信号を受信できなかった場合は、そのままリモコンのLED表示を終了します。	12
	車両側は正常に動作しているにも関わらずリモコンに X が点灯される。	リモコンから車両側への通信は正常に行なわれたが、車両側からリモコンへのアンサーバック信号が何らかの原因により受信できなかった事が考えられます。	12
	表示が暗くなったり不安定な状態になる。	リモコンの電池が消耗していると思われる。新しい電池に交換してください。また、低温になる場所にリモコンを置いておくと、一時的に電池電圧が低下してリモコンの表示が暗くなる場合がありますが、常温になれば元に戻ります。	29

	症状	解説	参照ページ
エンジンスターター機能について	エンジンスターターが作動しない	本体のヒューズが切れていませんか?配線を再確認してから新しいヒューズ(別売)に交換してください。	—
		ID登録が正しく行なわれていない可能性があります。再度リモコンIDの登録を行なってください。	31
		P/N検出データが消失していませんか?再度データを書き込んでください。	23
		その他の原因の場合は「エンジンがかからないとき」を参照の上、確認作業を行なってください。	35
	エンジンスターターによるアイドリング中、純正キーレスエントリーが作動しない	ほとんどの純正キーレスエントリー装着車は、車両の仕様上エンジン始動中に純正キーレスエントリーが作動しないようになっています。このような車両の場合、エンジンスターター機能によるアイドリング中は、キーを使用してドアを開ける必要があります。	—

	症状	解説	参照ページ
その他の症状	通信距離が短い	リモコンの電池が消耗していませんか?新しい電池に交換してください。	29
		リモコンと車の間に電波を遮断する障害物が多いことが考えられます。特に金属物質は電波を通しにくく、通信距離を著しく縮めますので使用の際はご注意ください。	—
		本体のアンテナ部分先端が車両の金属部分(車両コンピューターユニットやハーネス類を含む)に近い場合は、通信距離が短くなります。金属部分から5cm以上離れるように取付位置を変更してください。	—
	キーによるエンジン始動ができない	車種別専用ハーネスがゆるんでいたり、本製品の本体が接続されていない場合、キーによるエンジン始動ができなくなります。接続が確実に行なわれているかどうか確認してください。	—
	その他、動作が不安定な場合	車種別専用ハーネスのゆるみがないか、また、アースコードが確実なアースポイントに接続されているか確認してください。	—

■仕様

摂術基準	特定小電力無線局テレコントロール用無線設備
使用周波数	429MHz帯(6チャンネル自動選択式)
通信方式	単信方式
送信出力	10mW
送信時間	40秒以内
送信休止時間	2秒以上

■リモコン

外形寸法	50.0×30.0×14.8(mm)※アンテナ部含まず
重量	約22g
使用電池	CR2025×2ケ
電池寿命(常温時)	約1年(1日10回の送信を行なった場合)
作動温度範囲	-10℃~+60℃

■本体

外形寸法	66×139×27(mm)(突起部除く)
重量	約165g
電源電圧	DC12V
消費電流	約13mA(待機時)(スリープモード付)
作動温度範囲	-20℃~+70℃